

2009年4月5日 枝の主日

マルコ 11:1-11 ゼカリヤ 9:9-10 フィリピ 2:6-11

★今週の聖句

「主がお入り用なのです。」

マルコによる福音書 11:3

★ ねらい

- ① 3節の御言葉から、私たちすべてがイエスに求められ、必要とされていることを知る。
- ② 使いに出された弟子たちが「イエスの言われたとおりに話すと」（6節）、持ち主は子ろばの借用を許してくれた。私たちもイエスの言葉に信頼していくことを伝える。

★ 説教作成のヒント

- ・ マルコ福音書は、イエスの最後の一週間を一日ごとに追っている。（11:1・日、11:12・月、11:20・火、14:1・水、14:12・木、15:1・金、15:42、16:1・土、16:2・日）。
- ・ また、金曜日については三時間ごとに追っている（15:1・六時、15:25・九時、15:3・正午、15:34・十五時、15:42・十八時）。全体を読むと、イエスの十字架から復活までの出来事がいっそうリアルに響いてくる

★ 豆知識

- ・ 「イエスは二人の弟子を使いに出そうとして」（1節）…「使いに出す」は「派遣する」という言葉で、これが後に「使徒」という言葉になった。
- ・ 「（主は）すぐここにお返しになります」（3節）…直訳すると、「（主は）すぐに子ろばをここに派遣します」となる。子ろばもイエスによって必要とされ、派遣された使徒のひとりとして、大切な役割を担っているのである。
- ・ 9～10節は、元来は詩編 118 編 25-26 節からの引用である。「ホサナ」は「今、救いたまえ」という意味。多くの人々は持てるものを尽くし、イエスを迎えた。熱狂的とも思える人々の叫び・歓迎は、長く不条理な苦しみを背負わされてきた民としての、魂からの叫びであったに違いない。彼らがイエスに期待していたのは、「我らの父ダビデの来るべき国に、祝福があるように」（10節）という言葉からも分かるように、「イスラエルの再建」であった。また、使徒たちが、昇天しようとしていたイエスに「主よ、イスラエルのために国を建て直して下さるのは、この時ですか」（使徒 1 章 6 節）と尋ねているところからみれば、弟子たちの期待もそこにあったことが分かる。人々の期待する王（＝メシア）は、「イスラエルのために国を建て直す」力ある支配者であったのだ。
- ・ 人々の期待とは 180 度異なった使命を神から託され、十字架上での処刑へと進んで行くイエス。人々は後に、ホサナと叫んだその同じ口で、イエスを「十字架につけろ」とののしるのである。第一の日課、ゼカリヤ書 9 章 9～10 節に記されている「高ぶることなくろばに乗って来る王」こそまことの救い主、キリスト・イエスの姿にほかならない。

★ 説教

いよいよ、イエス様のこの世での最後の一週間がはじまりました。イエス様は十字架にかけられ、殺されて、すべての人たちの罪をゆるす救い主(=キリスト)となるために、エルサレムへと入って行かれます。「(イエス様の)一行がエルサレムに近づいた」(1節)のは日曜日のことでした。今だったらどうでしょう。自動車か何か、便利で速い乗り物で行くかもしれませんね。大切な使命に向かわれるにあたって、イエス様が乗り物として選ばれたのは「ろば」でした。イエス様は二人の弟子を使いに出して、「近くの村にろばのつないであるのが見つかるから、借りておいで」と言われたのです。持ち主が「どうしてそんなことをするのか」と聞いたら「『主がお入り用なのです』と言いなさい」、とおっしゃいました。ろばの持ち主はとても不思議に思ったことでしょうけれど、「イエスの言われたとおりに話すと」(6節)許してくれました。イエス様のおっしゃることは、必ずその通りになるのです。

たとえば、馬は戦争のときに王様が乗る動物で、いうなれば「力の象徴」です。イエス様に死刑の判決を下したローマ総督ポンテオ・ピラトは、この力強い軍馬に乗っていました。それに対してイエス様は、優しく、荷物の運搬や農作業に使われたおとなしいろばに乗って来られたのです。人々にとってろばは一家を支える大切な働き手、財産でしたが、イエス様の時代には、ノロマで価値の少ない動物だとも思われていました。

そのことは、現代でもあまり変わらないようです。東京の上野動物園に勤めていた小森厚(こもりあつし)さんという方が、上野動物園でいちばん人気のない動物はろばで、ほかの動物の柵の前では立ち止まって見る人も、ろばの前ではみんな素通りしていく。ろばは動物園でも注目されないでかわいそうだと、ある本の中で書いておられました。

ちなみに、ろばは背中に十字のしるしをもつ唯一の動物だと言われます。もしかしたら、これから十字架へと向かうイエス様を乗せたろばの背中にも、十字模様があったかもしれませんね。その意味で、このろばこそ、イエス様を背に乗せる使命を担うために派遣された、大切な使徒のひとりだったのです。「主がお入り用なのです」。今朝はこの言葉を、みんなの心に覚えてください。ろばは、このイエス様の言葉にしたがって、与えられた使命を果たしました。イエス様はみなさん一人ひとりにも「主がお入り用なのです」と、「あなたにしかできない・あなたにこそできる神様のご用があるのだよ」と語りかけ、求め、必要としてくださるのです。その福音を味わい、信じて、わたしにできることは何かを一緒に考えましょう。「主は馬の勇ましさを喜ばれるのでもなく/人の足の速さを望まれるのでもない。主が望まれるのは主を畏れる人/主の慈しみを待ち望む人」(詩編 147 編 10-11 節)というすばらしい御言葉があります。私たちには一人ひとり、神様から個性を与えられています。足の早い人、遅い人、手先が器用な人、細かな手作業は得意ではない人、話すのが大好きな人、話すよりも黙ってジッと物事を考えているのが好きな人、スポーツが得意な人、それよりも本を読むほうが好きな人…。一人ひとり、与えられている個性は違います。しかしどんな人も、イエス様にとってなくてはならない大切な存在なのです。

09/04/05

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

3 2 番

改訂版 8 2 番

やってみよう

ホットクロスバンズをつくろう！

欧米では受苦日（金曜日）にこのパンを食べる習慣があります。

イエスさまがこの世界を救ってくださった、というシンボルとしての十字架の模様を表面につけます。バターなどをつけてもおいしく食べられます！

ここでは簡単にホットケーキミックスで作ってみましょう。

ホットケーキミックスの生地を箱に書いてある作り方にしたがって混ぜますが、（ここが大切！）手でまとめられるくらいのかたさに水分を調節して軽く打ち粉をし、小さな子どもの手のひらぐらいの大きさに丸くまとめます。

天板に並べたら危なくないテーブルナイフなどで少し深めに十字の切れ目をいれます。・

まず予熱をします。オーブンなら 170 度で 20 分ぐらい、オーブントースターなら 10～15 分ぐらい。途中焦げそうになったら、アルミ箔をかけるなどします。

焼き立てをあたたかいうちに！

はなそう

誰かが歩くための道に、特別な敷物が敷かれている所を実際に、またはテレビで見たことがありますか？

（例：結婚式の赤い敷物とか etc…）

どうして、特別な敷物を敷くのでしょうか？どういう意味があるのかな？調べてみましょう。

調べたら、そのことと、今日の聖書の箇所で人々がイエスさまが通る道を作ったことには、なにか関連があるかな？

2009年4月12日 復活祭

マルコ 16:1-8 イザヤ 25:6-9 Iコリ 15:21-28

★今週の聖句

「あの方は復活なさって、ここにはおられない」

マルコによる福音書 16:6

★ねらい

- ①マルコが伝える「復活のキリストの福音」は、「ガリラヤ」から始まることを伝える。
- ②その福音は、わたしたちの日常生活にも届けられていることを伝える。

★説教作成のヒント

- ・メッセージをする者にとって「復活のキリスト」はどこにおられるのかを黙想する。

★豆知識

- ・「安息日が終わると」(1節)…「安息日(土曜日)の日没が来ると」という意味で、午後六時を指す。私たちの感覚では「土曜日の夕方に」というところだろうか。安息日にはあらゆる労働が禁じられているため、店も閉まっている。安息日が終わればその規定は解かれるから、香料を買いに行くことができるわけである。
- ・「マグダラのマリア」…彼女については9節で「以前にイエスに七つの悪霊を追い出していただいた婦人である」と説明されている(ルカ8章2節も参照)。
- ・「ヤコブの母マリア」…イエスのこの世の母であろう。40節で言われている小ヤコブとヨセがイエスの兄弟(マルコ6章3節)であるなら、その可能性は高くなる。
- ・「サロメ」…ゼベダイの子ヤコブとヨハネの母である。かつてイエスに、二人の息子がイエスの右と左に座れるようにと願った女性でもある(マタイ20章20節)。
- ・「油(=香料)を塗る」ことは、墓の中の臭気を抑える処置であり(ヨハネ11章39節)、当時、香料は王の埋葬時などに使用されていたことを考えると(歴代誌下16章14節、エゼキエル書16章9節)十字架刑によって処刑された者に対する処置としては異常なものであった。女性たちのイエスに対する最大限の敬意と、深い愛が感じられる。
- ・「あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われていたとおり、そこでお目にかかれる」(7節)…マルコにとって「ガリラヤ」は単なる地名ではなく、特別な意味を持った場所である。ここはイエスの故郷、公に宣教開始の宣言をされた地であり(1章14-15節)、最初の弟子たちを召した場(1章16-20節)であり、「宣教し、悪霊を追い出された」(1章39節)ところであった。預言者イザヤによれば「異邦人のガリラヤ」であるが(イザヤ書8章23節)、そのような「辺境の地」からこそ神の福音は始まることを、マルコは福音書を結ぶにあたり、特別な思い入れをもって宣言しているのである。生前のイエスが人々と共に生きた「生活の場」であったガリラヤからこそ、復活のキリストの福音は始まるのだと。あの出発点に、「信仰の原点」へと戻れ!と。

★ 説教

「週の初め（＝日曜日）のごく朝早く」3人の女性たちが墓に向かいました。イエス様が十字架にかかれたとき、男性の弟子たちは恐れあまりみんな逃げてしまいましたが、最後までイエス様のそばにつき従い、お世話をし、見守っていたのは女性の弟子たちでした。彼女たちはイエス様が亡くなって、すでにお墓に葬られたことを見届けていましたから、その気持ちはひたすらお墓へと向かっていたのです。わたしたちも、愛する人・大切な人との「別れ」や「死」を体験したとき、その心は、愛する人との楽しかった過去の思い出に向かうのではないのでしょうか。

その3人とは、マグダラのマリア（イエス様に七つの悪霊を追い出していただいた女性）、イエス様のこの世の母親であるマリア、そしてサロメ（ヤコブとヨハネの母）でした。イエス様の体に「香油」を塗るために出かけて行ったのです。もうこの世でイエス様にお会いすることはできないけれども、せめてその体に香油を塗り、大切に葬りたい…。彼女たちは、そんな気持ちでいたことでしょう。

ところが…！です。お墓に行ってみると、入り口にある大きな石がすでに脇へと転がされていて、そこに「白い長い衣を着た若者」（＝天使）が立っていたのです。そして、ひどく驚いている女性たちに告げました。「あの方は復活なさって、ここにはおられない」（6節）と。えっ！！「ここ（＝お墓の中）にはおられない」とするならば、いったいどこにおられるのでしょうか。そう、「ガリラヤ」です。

このガリラヤは、イエス様がかつて、およそ三年にわたりたくさんの弟子たちと共に生活し、病気や差別に苦しんでいる人たちと出会って罪のゆるしを宣言し、心と体を癒し、神様の福音を宣べ伝えたところでした。まさに「信仰生活の原点」だったのです。そのような場所であるガリラヤに「復活のキリスト」はあなたたちより先に行かれる（あなたたちに先立って今行かれている！）と天使は告げます。

そのことを「弟子たちとペトロに」告げなさいと言われていています。これは「弟子たち、とりわけペトロに」という意味です。覚えているでしょうか。ペトロは、イエス様が十字架にかかれる直前、周りの人たちに「イエス様など知らない」と三度も言ってしまった弟子でした（マルコ 14章 66～72節）。イエス様にことのほか大切にされ、愛された人だったのに、そんなことを思わず口にしてしまったのです。しかし、とりわけそのペトロに、イエス様が復活されたメッセージを伝えなさいと天使は言うのです。

わたしたちも何か大きな失敗をしたり、間違いをしてしまうことがあるでしょう。大切な人を傷つけてしまうことだってあるに違いありません。でも、そのことで「もうダメだ」と自分を必要以上に責めることはありません。いつでも、どこでも、何度でも、復活のキリストがあなたに出会い、語りかけ、励ましてくださるのですから。復活のキリストは、あなたを見捨てることは決してありません。そして、弟子たちにとってはキリストと出会う場所が「ガリラヤ」であったように、私たちにとっての復活のキリストは、学校や家庭、私たちが生活しているあらゆるところにいてくださるのです。本当に感謝なことですね。

09/04/12

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

1 1 3 番

改訂版 9 1 番

やってみよう

早天礼拝をしよう

イースターの朝早くにマグダラのマリアらがイエスさまの葬られた墓に行き、そこで知らされた嬉しい知らせをおぼえて朝早くに(6時~7時?)外で礼拝しましょう。

礼拝の後、隠してあったイースターエッグをみんなで探します。

隠すときには数をかぞえておくと「あと何個・・・」というときに参考になります。

そのあとには簡単な朝ごはんを皆で食べます。

例えば・・・おにぎり&味噌汁 ホットドッグ&スープ など・・・。

4月26日の日課、復活したイエス様と弟子達のなさった朝の食事の話を紹介するのも良いと思います。

礼拝までの時間に・・・献花のおてつだい

紙で卵、うさぎ、ひよこなどを描き、針金の先にテープで貼る。献花に添えて飾ります。

必ず前もって献花の係の方と連絡を取りましょう。

他には受付などに小さな花を飾り、そこに添えても良いと思います。

はなそう

「イエスさまが墓の中におられない」と聞いて、マリアたちはどんな気持ちだったのでしょうか？考えてみましょう。

“復活なさった”という意味を、すぐに理解できたと思いますか？想像してみましょう。

2009年4月19日 復活後第1主日

マルコ 16:9-18 使徒 3:11-26 Iヨハネ 5:1-5

★今週の聖句

「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」

マルコによる福音書 16:15

★ねらい

- ① 復活の主が語る「新しい言葉」を私たちの手で、口で伝えてゆく大切さを伝える。
- ② 「復活」は科学的検証の事柄ではなく、「信じる」事柄であることを伝える。

★説教作成のヒント

- ・ メッセージを伝えるあなたにとって「キリストの復活」とは何かを祈り、黙想する。

豆知識

- ・ 本単元の結びにあたる9節以下からの部分が〔 〕(カッコ)つきであるのは、新共同訳聖書の「凡例」が示すように「後代の加筆と見られている」ことを示すためである。この部分は元来、有力な聖書写本には欠けており、かなり後代の写本になってようやく登場したという経緯を持つ。本来、マルコによる福音書は16章8節で完結していたと思われるのだが、マルコの意志を継ぐ人々は、復活のキリストのマリアと二人の弟子たちへの顕現、11弟子たちへの派遣の出来事を付け加えることなしには、どうしても福音書を完結させることができなかつたのである。ここに、教会の正統な、熱い信仰が表明されているとみるべきだろう。
- ・ 「マグダラのマリア」(9節)…「以前イエスに七つの悪霊を追い出していただいた」マリアのところへ真っ先に復活のキリストが現れたのは、彼女自身と人々が、イエスの復活によってもはや死に支配されることなく、それを完全に克服した(七は完全数/創世記2章1~3節)、神によってつかまれた新しい命に生きることを示すためである。
- ・ マグダラのマリアと二人の弟子たちから復活のキリストの顕現の知らせを聞いても「信じなかつた」者たちがいたことが、3箇所も記されている(11、13、14節)。復活というある意味、超自然的な出来事はそう簡単に信じられることではないかもしれないが、復活はどこまでいっても、科学的に証明することができないのである。やはり「信じる」ほかない事柄なのである。復活のキリストがトマスに語られた言葉(ヨハネ20章28節)、またパウロの言葉(ローマの信徒への手紙10章14~17節)を思い起こす。
- ・ 復活のキリストは弟子たちに、信じる者には「悪霊を追い出す」しるしが伴うことを告げられるが、宣教命令の目的は、悪霊を追い出すこと以上に、「新しい言葉を語る」ことにあつた。これまで誰も一度も聞いたことがない新しい言葉を、復活のキリストにおける「新しい福音」を、出会って行く者一人ひとりに、「あなたの手で、あなたの唇を通して届けなさい」と言われるのである。
- ・

★説教

イエス様が復活された朝のことです。よみがえられたイエス・キリストは、真っ先に、マグダラのマリアへとご自身を現されました。復活して、いの一番に出会いに行かれるのですから、イエス様にとって、このマリアがとても大切な、愛するひとりの弟子だったことが分かりますね。福音書を書いたマルコは彼女について、「以前イエスに七つの悪霊を追い出していただいた婦人」(16章9節)と紹介しています。

「悪霊」は聖書にたびたび登場しますが、聖書の時代には病気の原因とも考えられていましたし、悪霊を追い出すことは病気のいやしと等しいことでもあったのです。また、神様に敵対する力として考えられていました。

悪霊に関わる話に挟まれて、十字架の出来事以来、恐れと、イエス様を見捨ててしまった後悔から、部屋に閉じこもっていた弟子たちの姿が描かれています。そこへ復活のキリストが現れ、不信仰とかたくなな心をおとがめになりました。復活というのは、ある意味、わたしたち人間の理解を超えた、超自然的な出来事です。そして、そのことはどこまでいっても「ほんとうに起こったのか。だとすればどのように起こったのか？」という風に、歴史的・科学的に「証明」することができないのです。そうです。復活はわたしたちが、みなさんが「信じる」ほかない出来事であるのです。イエス様の死を泣き悲しんでいたにもかかわらず、マグダラのマリアや二人の弟子たちからの復活の知らせを信じることができない人々の姿には、自分自身の悲しみの中に閉じこもってしまっただけで抜け出すことができない「かたくなさ」が表れています。

イエス様は弟子たちに、信じる者には「悪霊を追い出す」しるしが伴うゆえに、そのしるしを携えて全世界に行き「すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(15節)とおっしゃっています。けれども大切なのは、悪霊を追い出すこと以上に、「新しい言葉を語る」ことにありました。「新しい」というのですから、これまで誰も、一度も聞いたことがない言葉、「今、あなたのために語られる、とっておきの喜びの言葉」ということです。マリアと二人の弟子たちは、この「キリストはよみがえられた！」という喜ばしい知らせ(グッド・ニュース)を人々に知らせに出かけて行きました。それは、何よりもまず、その知らせを聞いたマリアや二人の弟子たち自身が「喜びに溢れた」からでしょう。くじける心、悲しむ心、疑い迷うかたくなな心、ぽっかりと穴が空いてしまったかのようなからっぽの心…そんな心によって満たされないでいる人たちのところに、キリストからの「とっておきの喜びの言葉」を伝えに出かけようではありませんか。

「全世界」とは、どこか遠いところに向かって出発しなさいということではなく、私たちの置かれている今ここでの日常生活のこと、わたしたちのごく身近でキリストの御言葉を必要としている人のいるところです。キリストは言われます「さあ、行こう」と。

09/04/19

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

115B 番

改訂版 88 番

やってみよう

イエスさまがよみがえられた！・・・カードづくり

色画用紙を何色か用意して 1/4 くらいの大きさに切り、半分に折っておきます。

用意した型紙（★雲に乗ったイエスさま、十字架）を使って輪郭をとり、はさみでカットします（まちがってバラバラになるのも学びです。広告などで試してから画用紙を使うのも一案。）広げて白い画用紙に貼ります。

「イエスさまはよみがえりました」またはこの日の聖句「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」を書きます。

はなそう

弟子たちは、イエスさまの復活をすぐに信じられませんでした。どうしてでしょうか？みんなで考えてみましょう。

「信じられなかったけど、それは本当だった」そういう経験をしたことがありますか？

弟子たちは、イエスさまの復活を知って、衝撃を受けたでしょう。素晴らしいことを知った時、そのことを誰かに伝えたくになりますか？あなたならどんな気持ちになるでしょう？

2009年4月26日 復活後第2主日

ヨハネ 21:1-14 使徒 4:5-12 Iヨハネ 1:1-2:2

★今週の聖句

「さあ、来て、朝の食事をしなさい」

ヨハネによる福音書 21:12

★ ねらい

- ① 私たちの信仰生活は「復活のキリストの声に聴く」ことから始まることを伝える。
- ② 復活のキリストは挫ける者、哀しむ者、悩む者に必ず希望を与えてくださると知る。

★説教作成のヒント

- ・この大漁の出来事を、ルカ5章1～11節の記事と併せて読み、黙想する。

★ 豆知識

- ・「ティベリアス湖」(1節) …これは「ガリラヤ湖」の別名であるが、歴史的にガリラヤ湖は、その時代時代において呼び名が変わってきた。旧約聖書時代には「キンネレトの海」、のちに「ゲネサレト湖」、ローマ人がパレスティナを植民地として支配するようになると、ローマ皇帝の名をつけて「ティベリアス湖」と呼ばれるようになった。マルコとマタイ福音書は「ガリラヤ湖」、ルカとヨハネは「ティベリアス湖」と記す。イエスが殺された後、エルサレムの町の一室で息を潜めて追っ手の追及を逃れていた弟子たちは(20章19節)、ほとぼりが冷めたころ、故郷に帰ってゆく。多くの弟子たちがガリラヤ出身であった。故郷は、傷つき、くじけた心を優しく包み、癒してくれる場所ではないか。あるいは再出発するためには、一度そこへ帰らなければならないと思ったのかもしれない。
- ・「舟の右側に網を打ちなさい」(6節) …この出来事は、ルカ5章1～11節に記されている福音を思いこさせる。あの大漁の出来事を目の当たりにして、恵みの中で自らの罪深さに気づかされ、主の弟子とされたペトロは、復活のキリストとの出会いを通して同じ体験をする。漁においてはプロであるペトロが、「呼びかける声」に従って網を打つ。復活のキリストの語りかけだとは知らずとも、聴き従うことによって、思いがけない恵みがもたらされるのである。
- ・「イエスの愛しておられたあの弟子」(7節) …ヨハネのみが何度も伝える(13:23、19:26、20:2、21:20)する弟子であり、福音書の著者ヨハネであるとの解釈がなされてきた。筆頭弟子であるペトロへの配慮から実名を避けたと考えられる。
- ・「153匹もの大きな魚」(11節) …諸説あるが、当時の地中海にいる全種類の魚であるともいわれる。国家、民族、人種、性別を超えて、イエスに捕らえられないもの、イエスの恵み・祝福に与らないものは一人もいない、と受けとめられる。

★説教

イエス様の7人の弟子たちがふるさとのガリラヤに集っていたときのことです。それまでも二度、彼らは復活のイエス様にお会いしていたのですが（14節）、いまだに信じられなかったので、深く落ち込んでいました。自分たちはあのとき、十字架にかかったイエス様を見捨て、大切な方を裏切って逃げてしまった…。そんな情けない、後ろめたい思いが、弟子たちにはあったことでしょう。皆さんはとても哀しく、落ち込んでいるときに何をしましょうか？ペトロは思わず「わたしは漁に行く」（3節）と言いました。色々な気持ちが入り混じっていたに違いないけれども、ペトロは魚をとることが仕事でしたから、哀しくても、つらくても、漁に行かなければならなかったのです。あるいは、「じっとしてなんかいられない。漁にでも行けば、イエス様を失った哀しみを少しの間だけでも忘れられるかもしれない」。そう思ったのかもしれませんが。私たちもそうですね。イヤなこと、哀しいこと、ツライことがあっても、生きていかなければなりません。学校にも、仕事にも行かなければならないのです。

そうして、ほかの弟子たちも一生懸命漁をしましたが、その夜は何もとれませんでした。かつてイエス様は、弟子たちにおっしゃいました。「わたしを離れては、あなたがたは何もできない」（ヨハネ15章5節）と。ふるさとのガリラヤに帰って来てはみたものの、そのお言葉通り、イエス様がおられなくては、何をしたいかわかりません。

早朝、力なく漁を終えようとする弟子たちに語りかけてくる声がありました。「子たちよ、何か食べ物はあるか」（5節）。けれども、弟子たちはそれに気づきません。復活のキリストが語りかけてくださっても、弟子たちに見られるように、私たち人間のかたくなな心は、そう簡単には開かないのです。そんな人間に、復活のキリストは、平たく訳すなら「何か食べ物は無いの？」と、腰を低くして歩み寄ってきてくださるのです。確かなことはただ一つ。人がそれに気づこうと気づくまいと、復活のキリストは、生きようとする者に、必ず希望を与えてくださるということです。その声の教えるままに網を打ってみると、一晩中の苦労がうそだったかのように、網を引き上げるとそれを破らんばかりに勢いのいい魚が入っています。「魚があまり多くて、もはや網を引き上げることができなかった」（6節）。

何と驚くべきキリストの豊かさでしょうか。あのときもそうでした。ペトロがイエス様のお言葉通りに網を降ろすと「おびたしい魚がかかり、網が破れそうになった」（ルカ5章6節）。でも今や彼らは、あのときのように獲れた魚の多さに驚くこと（ルカ5章9節）はありませんでした。なぜなら、恵みもたらされたのは、復活のキリストだったからです！

「一緒に食事をする」ということは、とてもホッとすると、あたたかな気持ちになることができるひとときではないでしょうか。家族と、あるいはまた大切な・大好きな人と一緒にする食事ほど嬉しいことはありません。「大切な人がわたしと一緒にいてくれる」というだけで、嬉しくならないでしょうか。復活のキリストは、「わたしはいつもあなたたちと共にいるのだよ」と豊かな食卓を整え、みんなを招いてくださっています。わたしたちも弟子たちと同じように、キリストの食卓から勇気と励まし、命を受けて歩んでゆきましょう。

09/04/26

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

90番

改訂版126番

やってみよう

私たちみ～んなが魚！

紙でそれぞれの子どもが魚をつくります。色をつけ、魚に自分の名前、家族や友だち、教会の人の名前などを書きます。シート、風呂敷のような大きな布を網に見立てて、その上に魚を並べます。布の四隅をまとめて一つに持ち、神さまが私たちすべてを一人ももれなく救ってくださる恵みをおぼえて感謝の祈りをささげます。

または魚に国の名前を書くのもよいでしょう。どの国のどんなひと神さまは救ってくださるのです！

漁師さんになって劇遊びをするのも楽しいと思います。

はなそう

もともと漁師だったペトロたちは、漁に行きました。でも、魚は捕れませんでした。

イエスさまが自分たちのそばからいなくなった中で、何も魚が捕れず、ペトロたちはどんな気持ちだったでしょうか？

陸に上がると、火がおこしてあり、パンも魚も用意してありました。主イエスさまが彼らのために用意してくださっていたのです。「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と言われて、弟子たちはどんな気持ちだったでしょうか？

あなたならどんな気持ちになりますか？